

## 平成21年度第1回教育研究評議会議事録

日時 平成21年4月15日(水) 14時30分～17時40分  
場所 事務局大会議室  
出席者 興, 山本(義), 中村(高), 西村, 満井, 南, 露無, 舩橋, 佐藤,  
今野, 石井, 原田, 山本(章), 伊東, 酒井, 荒川, 村井, 青山,  
増田, 柳澤, 東郷, 佐古, 高木, 鈴木, 渡邊(修), 永津, 渡邊(尚)  
田中, 三村各評議員  
欠席者 三橋, 加藤評議員  
陪席者 野田, 中村(和), 寺下, 太田各学長補佐  
大戸, 塩田各監事

議事に先立ち学長から, 参考資料1に基づき, 今年度新たに副学長, 部局長及び学長補佐に就任した者の紹介, 並びに, 西村理事から, 新たに部課長等に就任した者の紹介があった。

続いて, 総務課長から, 教育研究評議会規則第4条に規定されている審議事項及び申合せに基づく企画・調整会議に審議を付議する事項についての確認, 並びに, 今年度教育研究評議会開催日程について, 参考資料2, 参考資料3に基づき説明があった。

### I 前回議事録の承認

平成20年度第11回教育研究評議会議事録(案)を原案どおり承認した。

### II 審議事項

#### 1 静岡大学職務発明規則の一部改正について

中村委員から, 資料1に基づき, 職務発明規則の一部改正について提案があり, 審議の結果, 原案どおり承認した。

#### 2 静岡大学の学部, 大学院及び研究所に置く講座等の教員組織を定める規則の一部改正について

山本(義)委員から, 資料2に基づき, 静岡大学の学部, 大学院及び研究所に置く講座等の教員組織を定める規則の一部改正について提案があり, 審議の結果, 原案どおり承認した。

#### 3 静岡大学大学院法務研究科規則の一部改正について

山本(義)委員から, 資料3に基づき, 静岡大学大学院法務研究科規則の一部改正について提案があり, 審議の結果, 原案どおり承認した。

#### 4 静岡大学長選考会議委員の選出について

議長から、資料4に基づき、3月で退任された浅利人文学部長の補充の委員の選出、及び選出方法については、「学長選考会議委員の教育研究評議会からの選出方法について」（平16.4.7教育研究評議会学長選考WG座長通知）に基づき選出したいとの提案があった。

（選出方法）

- ① 静岡地区構成員から1名を投票により選出する。
- ② 投票方法は、各地区別に評議員の氏名を記した投票用紙により、1名の投票用紙氏名左欄に○印を付して投票する。
- ③ 第1回投票において、有効投票の過半数を得た者は当選とする。
- ④ その他のケースについては、WG座長通知の要領による。
- ⑤ 開票は、事務局で行うものとし、学長が立会の希望者を募り、立会希望者不在の場合は、理事2名に依頼する。

上記選出方法に基づき、静岡大学長選考会議委員選出に係る投票を行った結果、以下のとおりとなった。

〔第1回投票〕

投票総数29票、有効投票数29票、無効投票数0票

開票の結果、過半数（15票）を超えた者がいないため、得票数上位2名（佐藤誠二・村井久雄）による決選投票を実施した。

〔決選投票〕

投票総数29票、有効投票数29票、無効投票数0票

開票の結果、上位1名（村井久雄）を当選者として決定した。

学長から、静岡大学長選考会議委員として村井久雄理学部長を選出し、同委員の任期は、前任者の残任期間であり、平成22年3月31日までとなる旨の発言があり、これを確認した。

#### 5 次期中期目標・中期計画（第4次案）について

山本（義）委員から、資料5に基づき、3月26日に国立大学法人評価委員会から示された第一期中期目標・計画期間の業務の実績に関する評価結果及び3月27日に開催された経営協議会での意見等を踏まえた第4次案の主な修正点について説明があった。

議長から、資料9に基づき、3月27日開催の経営協議会において委

員からいただいた意見の概要について補足説明があった。

議長から、今後5月の教育研究評議会及び経営協議会並びに6月の教育研究評議会及び経営協議会のさらなる審議を踏まえて、6月末の文部科学省への提出に備えたい旨の発言があった。

委員からの質問、意見等及びそれに対するコメント

- 総合戦略会議における検討状況、議論を踏まえた修正の概要等の情報提供について配慮願いたい。⇨重要なことなので、それらが判るように努める。
- 平成22年度から対応を迫られている、履修履歴などには全学での対応が必要である。
- 知的能力の意味は何か?⇨適当な言葉があれば置き換えることも可能。
- 計画番号27の検討依頼事項について、部局での考え方を5月までに取りまとめるのは困難と考えるが。⇨研究戦略会議で精査したい。
- 計画番号21の項目が多すぎるのでは?⇨多いと考えており、研究戦略会議において精査し、措置事項に移す事項もあり得る。
- 企画・調整会議でも発言したが、大学全体が取り組むべき事項と学部が措置事項として取り組むべきことの仕分けは、学年進行計画を立てる場合には重要となる。是非配慮願いたい。⇨十全を期していく所存である。

山本（義）委員から、計画番号34の措置事項に取り組まなければいけない「教員免許状更新講習」の記載が漏れていたとの発言があり、これに取り組んで行くこと、及び4月24日（金）に次期中期目標・計画の事前打合せのため文部科学省に伺う予定であるとの発言があった。

## 6 ドイツ連邦共和国ブラウンシュバイク工科大学との大学間交流協定の締結について

露無委員から、資料6に基づき、ドイツ連邦共和国ブラウンシュバイク工科大学との大学間交流協定締結の趣旨及び目的、当該大学の概要、協定の内容、交流実績の概要及び本件について4月15日開催の国際交流センター管理委員会で承認された旨の説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

### III 報告事項

#### 1 企画・調整会議報告

- (1) 平成21年度オーバーヘッド等相当分使途計画（案）について

中村委員から、資料7に基づき説明があり、審議の結果、継続審議となり、次回企画・調整会議において意見を伺い決定することとなった旨報告があった。

(2) キャンパス・イノベーションセンター東京事務所賃貸契約変更についてについて

西村委員から、資料8に基づき説明があり、審議の結果、承認された旨報告があった。

## 2 経営協議会報告

議長から、平成21年3月27日(水)に開催された、第5回経営協議会における審議事項について、資料9により報告があった。

また、議長から過去3回位、部局長の方々にもオブザーブしていただき、参考資料3に日程も記載されていることから、今後も日程が許せばオブザーブしていただきたい旨発言があった。

## 3 苦情処理委員会委員の選出について

議長から、平成21年度苦情処理委員会委員のうち、静岡大学苦情処理規程第3条第2項第3号(教育研究評議会の推薦を受け学長が指名した教員2名)の委員については、各評議員から推薦を受けた適任者の中から学長が選出し、教育研究評議会に諮ることとなっていることから、異論がなければ、後日、各評議員あてに適任者の推薦依頼を行い、次回の教育研究評議会において委員の選出について指名する予定であるので協力願いたい旨依頼があった。

## 4 ハラスメント防止対策委員会委員について

議長から、資料10に基づき、ハラスメント防止対策委員会委員を指名した旨報告があった。

## 5 評価会議委員の指名について

議長から、資料11に基づき、新任及び再任の評価会議委員について、報告があった。

## 6 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

南委員から、資料12に基づき、国立大学法人評価委員会委員長から示された中期目標期間にかかる業務の実績に関する評価結果の概要について報告があった。

引き続き、議長から、本評価結果に関する部局での問題点への対応状況

等について、各部局長に発言を求めた。

発言等は次のとおり

#### 人文学部

人文学部においては、評価結果を全教員に配付し、評価結果の要点は学部長がまとめている。6ページに記載されている「学業の成果：期待される水準を下回る」については何に起因するものか精査を行い、しかるべき改善を考えている。平成20年度に行った自己評価と評価委員会の評価との差異について検証したい。また、学部としての中・長期的な計画や自己評価も重要と考えているところである。

#### 教育学部

本日の資料を明日開催予定の教授会で示し、意見を聴取する予定である。認証評価とのすり合わせや地道な改善も必要かと考えている。

#### 情報学部

対応の詳細についてはこれから着手する予定である。何を成したかではなく、どのように記載したかが結果となっているような印象がある。学部としてさらに自己点検に努めたい。

#### 電子工学研究所

ナノビジョンサイエンスの領域が良好、その他は「ほぼ期待される水準」とされていて、少し物足りないと考えている。「期待される水準を上回る」を目指すため鼓舞して行きたい。

#### 法務研究科

予備評価及び認証評価もあり、少し疲弊気味である。基準が他の部局等とは異なっており、厳格な評価を行い、「可が多い」との結果になっている。進級率・修了率についても同じであり、評価とのずれを感じ、戸惑いを覚えている。

#### 創造科学技術大学院

現況調査表作成の後、自己評価を行っているが、データの示し方や記載の仕方、メリハリのつけ方が理解できていない部分がある。強く訴える事項があれば書き込んで行くことも重要と考えている。

#### 農学部

研究に関しては過大な評価を受けている感じがある。教育に関して、学部と大学院の水準評価に差があり、実質化に向けて改善していきたい。

#### 工学部

資料の6ページまでは教授会において各教員に紹介済みである。7ページ及び8ページの内容については精査していきたい。全体的に平均にとどまっており、データの取扱いについて熟知していなかった感がある。次回

の評価に向けて今から準備を進めていきたい。

#### 理学部

学生アンケートの結果が否定的に捉えられていて心外な部分がある。外国語能力、国際化への対応は理学部特有の問題ではなく、全学的に対応すべきものと考えている。

また、役員等から次のとおり発言があった。

- 計画番号16番について、学内の共同研究施設間のプロジェクト研究について配慮いただきたい。また、学部横断的なグループ研究についても実態の把握をお願いしたい。

59番の学生・教職員の安否確認体制については、本年5月1日から学内登録を開始する予定である。

- 自己評価と組織の外からの観点の違いを意識し、戦略について考えていくべきである。学内の部局間のディファレンスではなく、他機関の似通った分野でのディファレンスが問われているのかもしれない。

出口の評価が重視されており、プロセスが適切に評価される仕組みが重要と考えている。今後、国大協等を通じてメッセージを発信していきたい。

- 国際交流に関し、OB・OGの組織が機能していない。諸外国に対しダイナミックに展開したい。日本人を外国の拠点に派遣したい。留学生増に伴い、留学生との交流の機会を増やしてほしいとの学生の要望もあり、これを積極的に進めるということも考えられる。

- 「計画1-5」について、記載の仕方に留意が必要であり、組織整備を進めながら工夫していきたい。日本人学生の海外派遣の仕組みづくりや文化的な認識を持てる講義内容を考えなければならない。韓国からのサマースクールによって本学を訪れた学生とのコラボレーションや浜松の混住型の新宿舎が交流の引き金になればと考えている。次期計画作成の際に改善の工夫が必要である。

- 一連の評価に係る活動から、評価は「環境」であり、「誘導」であることを改めて実感した。

法人評価委員会（文科省）が各大学に対し何を求めているかを明確に把握することが重要である。

大学全体の経営については、学長のリーダーシップが強調されてきたが、これは、学長が中心になって、中期目標・計画を「組織」として実行していくということである。この点で、自立・分散型の組織の在り方がある程度見直す必要がある。

教育・研究については「個性化」が、業務運営・財務については「効

率化」が求められている。

佐藤委員から、第一期中期計画と第二期中期計画の相違をどのように考えるかが明確でなければならない旨の発言があり、議長から、各部局の成り立ちや沿革を踏まえながら、議論を尽くしていくことが重要である旨の発言があった。

## 7 科学研究費補助金交付内定状況について

中村委員から、資料13に基づき、本年度の採択状況及び非常に危機的な状況にある旨報告があり、併せて、その他の外部資金の概要について説明があった。

大久保学術情報部長から、科学研究費補助金若手スタートアップへの申請について、各部局等において支援及び協力願いたい旨要請があった。

また、西村委員から、中期目標における外部資金獲得の記載の方法については十分に考慮の上、対応すべきであるとの発言があった。

## 8 平成21年度静岡大学入学試験状況について

寺下全学入試センター長から、資料14に基づき、本学受験者に係る入試動向の分析結果について報告があり、合わせてZNCレポート(抜粋)の説明があった。

また、6月16日(火)に入学者選抜方法研究部会「報告会」を開催するので、多くの教職員に参加願いたい旨要請があった。

## 9 平成21年度入試広報計画について

寺下学長補佐(広報担当)から、資料15に基づき、平成21年度の入試広報計画について報告があった。

## 10 ラトビア共和国リガ工科大学との大学間交流協定の締結について

露無委員から、資料16に基づき、平成20年11月26日開催の教育研究評議会において協定締結が承認された、リガ工科大学との大学間交流協定が3月12日に締結された旨報告があった。

## 11 叙位・叙勲について

議長から、資料17に基づき、岩崎鑑一人文学部元教授に、平成21年2月13日付けで「従四位瑞宝小授章」が贈呈され、4月13日に伝達した旨の報告があった。

## 12 教員採用等報告

議長から、資料18に基づき、工学部2件及び創造科学技術大学院1件の教員採用等報告があり、教員の確保について全学的な取組みが必要であって、別の機会に相談させていただきたい旨の発言があった。

## 13 工程表実施状況について

野田学長補佐(企画担当)から、資料19に基づき、工程表の実施状況について説明があった。

議長から、検討開始時期に留意し、中・長期的な課題、短期間で解決しなければならない課題などについて峻別して取り組んでいかななくてはならない旨の発言があった。

[次回会議予定]

平成21年5月20日(水) 14:30～ 事務局大会議室